

令和3年3月作成

審議会等名	令和2年度 第2回 図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	令和3年2月26日(金) 午後2時～2時30分
開催場所	三条市立図書館 2階 視聴覚室
傍聴者の有無	あり(三條新聞社)
出席者氏名	<p>【協議会委員】 倉品委員長 長谷川副委員長 山田委員 六原委員 松原委員</p> <p>【説明のための職員】 (生涯学習課) 恋塚課長 笹倉課長補佐 竹田主任 (指定管理者) 石原館長 中野業務責任者 村山副責任者 梅田副責任者 山口副責任者 加藤副責任者</p>
協議題	(1) 第3次三条市子ども読書活動推進計画(素案) (2) その他
石原館長	(あいさつ)
	倉品委員長に進行をお願いしたい。

(第3次三条市子ども読書活動推進計画(素案))

倉品委員長	「第3次三条市子ども読書活動推進計画(素案)」についての説明をお願いしたい。
竹田生涯学習課主任	(説明)
倉品委員長	3点あったが、バリアフリー関係については何ページに書いてあるのか。
竹田生涯学習課主任	バリアフリーは13ページ「更に」の頭の部分からである。
倉品委員長	13ページ「更に」の一番上か。
竹田生涯学習課主任	そのとおり。メディアデイジー図書の更なる拡充について書いている。一番先頭と14ページの右に、同じように「メディアデイジー図書の更なる拡充というのを進めていきます」と入れている。その上に、電子図書館も書いている。また、13ページ一番下には、新たな図書館等複合施設の鍛冶ミュージアムや、科学教育センター機能が追加される予定なので、その部分も生

	かしつつ、新たな楽しみの提供を書いている。
倉品委員長	13、14 ページか。
竹田生涯学習課主任	そのとおり。ここはメインになっている。
倉品委員長	特に 14 ページ最後のマルチメディアデイジーについて、時代は進んで様々な形態になっている。質問や意見はないか。
松原委員	今朝の三條新聞に燕市立図書館の動向が載っていた。新図書館にもあのようなものを入れるイメージになるのか。
笹倉生涯学習課長補佐	燕市の電子図書館関係ということか。
松原委員	そのとおり。三条の新図書館はイメージ的に重なる部分があるのか。
竹田生涯学習課主任	基本的に電子図書館については検討中だ。まだ県内でも燕市しか導入実績がなく、費用対効果として見合うのか等予算も鑑みながら検討している。計画の記載文章としてはとしては「導入する」という言葉ではない。
六原委員	去年 3 月に分館で仕掛け絵本プロジェクトのイベントをしたとき、来館した子がマルチメディアデイジー図書に触れるコーナーがあった。図書館が持っていたのだからあれはなくなるのか。
石原館長	(マルチメディアデイジー図書データが入った CD-R について) 三条市立図書館で所蔵しており、引き継ぐ予定だ。
六原委員	それは活用できるのか。
石原館長	ノウハウを引き継ぎ媒体の有効性を理解してもらい、次期指定管理者のヴィアックスに判断を委ねたい。
六原委員	指で触ると音声が遅くなるなど、本を読めない子にとってはすごくいいアイテムだ。イベントのときも子どもに触ってもらった。もう既にあるのであれば、活用してぜひ子どもたちに届けてほしい。
竹田生涯学習課主任	それについては無くすということはない。今話をした電子図書館は、(今ほどのマルチメディアデイジー図書とは別に、) 一般向けの図書がそのまま電子として見られるというツールの話だ。
笹倉生涯学習課長補佐	補足だが、三条市には本館、栄分館、下田分館、分室があるが、電子図書館というのはそれとは全く別に、一つの分館ができるというイメージだ。一つの分館ができて、そこに電子図書を蔵書することになる。
六原委員	電子図書に特化するということか。

笹倉生涯学習課長補佐	そのとおり。電子図書館で ID やパスワードを取って、自宅に居ながらにして、電子図書を借りることができる。ただ、市内在住・在勤・在学の人しか使えない。繰り返しになるが、別の分館ができるというイメージだ。またゼロから本を買う必要があるため、燕市も 1,000 冊程度と聞いている。
倉品委員長	六原委員が言われたマルチメディアデイジー図書については、私も体験し、良いと思った。あれはこの図書館の財産なのか。
笹倉生涯学習課長補佐	そのとおり。
松原委員	石原館長が言った電子図書館のイメージ、新しい指定管理者への引き継ぎはどうするのか。
石原館長	導入をするかどうかは三条市に決定権がある。ただ、今のコロナ禍で対面式から非対面式になる中、情報や資料の提供という方法論が変わってきている。個人的には、ぜひ三条市も導入してほしいと考えている。
松原委員	次期指定管理者への引き継ぎや変更はいつ頃の予定か。
石原館長	TRC は来月 3 月 31 日まで運営し、4 月 1 日から新しい指定管理者に移行となる。
六原委員	<p>私たち図書館協議会委員ですら、いつから指定管理者が変わるのかわからなかった。それを懸念して質問もしていたが回答がなく、新聞の記事で知った。おかしいと思いながらも、質問や意見をしていたが、拾い上げられることはほとんどなかった。既に水面下で話や流れが決まっていたように感じる。その状態の中で選定をする形に納得いかないところもあり、三条の品格が下がるという残念な気持ちがある。だからといって、ヴィアックスやツクール・ド・さんじょうに文句があるということではない。新しい建物ができて、新しい革袋ができれば、中に新しい酒を入れたいというのは人情だと思う。そして、新しい図書館を私も楽しみに待っている。しかし選定のやり方について、スムーズに事を進める意味では、そうする以外はなかったのかと思ってしまい、少し残念だ。</p> <p>市の職員たちも真剣に仕事に取り組んでいるが、どの方向を向いて仕事をしていたのかと思い、長い間培ってきた信頼関係が少し損なわれる気がした。</p> <p>この後、ボランティアへの説明会がある。いつから変わるのかわからない方が大勢いる。たかだか読み聞かせをやっている</p>

	<p>人に意見を聞く必要がなかったのかもしれないが、13年間ずっと続けて図書館業務をしてきた TRC にも、人として失礼じゃなかったか。三条として少し恥ずかしい。話を中断して申し訳ないが、新しい図書館に子どもたちが大勢来る。そういった子どもたちに、正しい在り方、生き方を提起する大人でありたいと思った。</p>
倉品委員長	<p>誤解があるのかもわからないが、図書館の指定管理の運営主体が変更になった経緯が見えなかったということか。</p>
六原委員	<p>見えなかった。私たちのボランティアで集まる会議のとき、指定管理期間が通常は5年のものが、なぜ3年になっているのかという質問を度々していた。そして13年前に市の意向で図書館が直営から指定管理になったときも、私たちボランティアは集まって説明会を受けた。そのときも、度々人が変わるのは困る、続けてやってもらいたいと伝えた。そして、その間、ボランティアも図書館スタッフも、協力し合いながらやってきた。礼儀に反するというのはおかしいが、そのように感じた。これからも私たちボランティアが必要とされるのであるならば、信頼関係を新たにきちんと築いていかなければならない。</p>
倉品委員長	<p>指定管理者の選定において、市の様々な決まりがあり、話せる部分と話せない部分があるのかもしれないが、課長から簡単に話していただきたい。</p>
六原委員	<p>話せない部分があるならばいい。決まってしまうえば、出された薬は毒だろうが薬だろうが私たちは飲むしかない。</p> <p>ボランティアに生きがいを感じている人たちが、今日、コロナもあり大勢ではないが来ている。元気なうちはやり続けたいと思っている方ばかりなので、そこを課長にもわかっていただきたい。</p>
恋塚生涯学習課長	<p>私の所感だが、新しい体制ができたときに、長い期間で協力してやっていきたいというのはわかる。また新しいことをゼロからというよりは、継続していくことは大事だということもわかる。ただ一方で、長くなるが故に弊害も出てくるところもある。やるべきことがなかなかできていないということもある。これは TRC に対して言っているわけではない。一般論の話だ。そうすると、指定管理期間を定めて、5年間でやっていくわけだが、指定管理は継続するのか、それともまた新しいところがいいのかというところで、三条市が考えているところに沿って</p>

	<p>やれる部分と、自分たちが何を主体的にやるのかを選定に当たって応募者から提案してもらい、その中で審査をしている。</p> <p>このタイミングで指定管理者が変わったが故にボランティアをないがしろにしていると受け取られると困る。指定管理者が変わることによって、事務の引継作業や、TRC が雇っている職員が新しいヴィアックスでも引き続きやりたいという人もいれば、やりたくないという人もいる。そういう人たちへの説明会を行っていた。説明会や面談を行い、新しいヴィアックスに行くという形で順序立てており、その中で大事なことは、ボランティア団体の方々にしっかりと、引き続き協力してもらえるとありがたい。わかってもらうために、ないがしろにしているわけではなく、引き続きよろしくお願ひしたい。それでまた何か要望等があれば、そこで伺う。それがこの後行う予定の説明会になる。それで終わりではなく、定期的にこのような議論をしたいということであれば、そういう場をつくるのはやぶさかではない。市民の方が使いやすい、使い勝手のいい、わくわくするような図書館等複合施設にすることを求めているので、引き続きご協力していただけるとありがたい。</p> <p>確かにその時々々のタイミングで、指定管理者がいつ変わるのかというのは、今初めて知ったのかもしれない。我々の説明不足な部分もあった。ただ、これについても独断で行っているわけではない。市議会の議事として、議論していただいて、そこで公表も当然されている。隠していることは全くない。ただ、目に届きにくい状態だったことを改めて感じた。</p>
六原委員	<p>選定以前の話だが、ボランティアや現場のリサーチを行い、選定のときにそれを加え、何か決めるときに入れてほしいという話をしていた。ただ、拾い上げられなかったことが、今のボランティア方の不満につながっている。</p>
倉品委員長	<p>課長の行政という立場の中で、市長の指導等もあって進めていく。変わるということは急なニュースで驚いたが、今の話で私は理解したつもりだ。</p>
六原委員	<p>その何日か前にボランティア代表定例会があった。そのときに生涯学習課職員が来て、どうなっているか質問したが、議会を通さない限りは公表できないわけだから何も言わなかった。ただ、1年も2年も前に、既にヴィアックスの公募が決まっていたという経緯が気になる。</p>

恋塚生涯学習課長	公募された選定手続き以前に決まったということは全くない。
六原委員	連絡を取り合っていたということ自体も、不信感を募らせる部分ではあったと思う。
恋塚生涯学習課長	私が聞いている限りだが、前回の指定管理者の募集で今の2社が出ていた。そこでまた聞きたいことがあれば、それぞれ確認をされていたと思う。誤解されると困るが、新しいところが決まっていたということは一切ない。実際、公募期間で公募してきたのは2つの団体しかなかった。その2つの団体を審査したのは去年だ。そこで外部委託等審査特別委員会へ、我々からそれぞれの評価を説明し、その中で最終的に判断してもらおう。その判断を踏まえ、議会に提案する。議会における議論は市のホームページでも見ることができる。例えばツクール・ド・さんじょうはなぜ選ばれたのか等の質問も幾つか出ているが、しっかりと答弁を行っている。闇雲に決めているわけではなく、その部分については誤解しないでいただきたい。
六原委員	書類審査だけなのか。プレゼンはなかったのか。
恋塚生涯学習課長	指定管理では書類審査のみだ。自治体によって指定管理者の決め方はまちまちだ。プレゼンもあるかもしれない。例えば図書館の指定管理者を決めるのであれば、皆様のような方々に入ってもらいたいところもあるかもしれない。三条市は、図書館だけでなく他の施設も含め、今回の決め方で横並びに行っている。図書館だけ違うやり方をするわけにはいかなかったことを理解していただきたい。
山田委員	この質問書について、意見があるときは、今ここで話したほうがいいのか、この意見書に上げたほうがいいのか。
竹田生涯学習課主任	意見書でお願いしたい。本日は時間の都合もあり、配布物をすぐに目を通すことは難しいと思う。基本的には意見書に書いていただいて、郵送してほしい。
山田委員	承知した。具体的には話さないが、私が言いたいのは、「本で育む生きる力」を本当に三条市がやりたいのであれば、学校図書館と連携しなければ、子どもの図書館や本に向かうという力は育たないということだ。図書館は分館を含めて3つだが、学校図書館は全部の学校にある。私は、ある学校にボランティアとして週に1回ぐらい書架の整理に入っているが、大変お粗末だ。

	<p>学校図書館の予算はどれぐらいあるかよくわからないが、同じ本が3冊もある。図書館担当が替わり、そうするとまた本屋が見本を持ってくる。そうすると、図書館担当が買う。また替わる。また買う。そのため2年ぐらいの間隔を空けて3冊も同じ本がある。学校図書館の予算が少ない、限られた予算の中で、同じ本が3冊もあるとはどういうことなのか。そういったことから、学校図書館との連携を図らなければならない。具体的にはここに書かせてもらう。</p>
六原委員	<p>そのことについては、1次でも2次でも言い続けてきたことだが、最後の評価でも挙がってこない。評価もしていなかった。</p>
山田委員	<p>私は、この件について三条市が本気で考えているのか聞きたい。</p>
六原委員	<p>教育委員会から図書館自体が離れている。以前は関わりがあったと思うが、公民館での説明会のときに管轄が変わったと説明があった。その時点で学校図書館との連携は難しいのではないかと感じた。なので、この意見に関しては強く書かれるといい。</p>
山田委員	<p>市立の学校なので、三条市の考え方によっては、いかようにでもできると思う。だから市の考え一つだ。やる気があるかないか、それだけだと思う。</p>
恋塚生涯学習課長	<p>そのとおり。ある自治体は、市長の思いで、まず図書館を直す前に、学校図書館を充実させて直したと聞いている。きっかけは学校図書館の汚かったと言われるようなところを、きれいにするところからスタートしたようだ。ただ、そもそも数が少ないので、図書館で補いたい。子どもたちから始まって図書館というところで、成人の方や年配の方も含めて、どうぞという形にしていた。教育委員会でも、今のご意見のようなものが出てきている。今は市民部と教育委員会であり、学校図書館と図書館とは違う感じになっているが、つながっているところは当然ある。そういったものを含めて、計画に盛り込めるようなことを考えていきたい。</p>
山田委員	<p>ぜひお願いしたい。</p>
倉品委員長	<p>今年の第1回のときに、今までのものをいただいた。そちらと照らし合わせ、話のあった3件の新しい提案ということで、チェックしながら反映させていただきたい。</p>
六原委員	<p>特に来年度からタブレットが子ども一人ずつに配られること</p>

	<p>を教育委員会の会議で聞いたので、子どもは活字や本から離れていくのではないかと懸念している。実際、タブレットは魅力的だ。現場の先生は使い方を教えなければならないし、使いこなせるようにしなければならないが、本が子どもたちからも見放されてしまうことがないようにしていただきたい。</p>
倉品委員長	<p>駆け足になってしまったが本日はここまでとする。新年度、この読書活動推進計画が中心になってスタートすると思う。よろしくお願いをしたい。</p> <p>それでは館長にお返しする。</p>
石原館長	<p>(閉会のあいさつ)</p>